



NPO 法人 京都観光文化を考える会

都草だより

第11号
発行人：坂本孝志
編集人：西野嘉一
発行所：京都市上京区
下立売通新町西入
京都府庁旧本館2階
電話：075-451-8146

第 1 回都草文化交流会



『海神別荘』を觀賞



『イノダコーヒ』のこだわりを聴く参加者

都草は今年創立 5 周年を迎え、会員数も 350 名を超えました。都草事業に一人でも多くの方々にご参加頂き、交流を深めていくことを目的に文化交流会を企画致しました。昨年京都賞の思想・芸術部門において、歌舞伎界からは初めて坂東玉三郎氏が選ばれました。それを受け、第 1 回目の文化交流会として、2 月 25 日に MOVIX 京都にて「シネマ歌舞伎の集い」を行いました。

映画鑑賞後、参加者 16 名でイノダコーヒに場所を移し、コーヒーの香りを楽しみながら、シネマ歌舞伎の余韻にひたりました。普段は都草行事にあまり参加出来なかった方ともゆっくりとお話することができ、有意義な時間を過ごしました。

第 2 回は「春爛漫の二条城、着物を着て歩きませんか」を開催いたします。是非ご参加ください。

- ・日時：4 月 7 日（土）AM 9:45 集合
- ・場所：二条城東大手門前（理事 藤井久美子）

私のガイド体験



「私はずっと定年まで経理の仕事をしていましたので、特定少数の人としか話す機会がなく、大勢の人達を前にして喋る事は、今でも苦痛で大の苦手です。私にとって都草でのガイドは、その克服の為の修行と考えています。自己中心型で、しかも「アノー」「・・・デスネー」を連発した聞き苦しいスピーチ、時には自分でも気がつかない間違った説明を口走るなど、冷汗連続の修行なのです。私には、JTBなどの十回程度のガイド経験しかありませんが、自分なりにいろいろと調べてガイド資料を作ることを楽しみにしています。

また、かなりの距離を歩くので健康維持にも大変役に立っています。

エピソードと言えば、昨年 3 月 3 日「かつみ♥さゆりのなかよしがいちばん」という TV 番組の収録で「ポヨヨン」で有名な「かつみ・さゆり」を季節外れの雪の降る嵐山の野宮や竹の小径をガイドしたことです。終わった時、さゆりさんから「シュンドウさんありがとうございました」と丁寧なお礼を言われ、大感激しました。残念ながら 3・11 の大震災の為、お蔵入りで「幻の番組」となりました。

私の拙いガイドでも、終わって大変感謝され、お礼をいわれた時、本当にほっとすると同時にうれしい気持ちで満たされます。お茶を差入れて貰ったり、また、ポストカードや森嘉の豆腐を頂いたこともありました。

これからも、心のこもった一期一会の楽しいガイドができるように修行に励みたいと思います。

（会員 俊藤靖）

◆◇伏見区誕生八十周年を記念 都草深草支部活動報告 ◇◇



「初詣で欲の深さに神あきれ」、「おさい銭あげた時から神信じ」
 (『毎日新聞の川柳』から)

伏見稲荷大社の拔穂祭の時、荷田春満旧邸にて地元の保勝会の一員として参加していた私に、坂本理事長から声をかけられたのが都草入会のきっかけです。

伏見区深草支所では地域のまちづくりを目指して、十数の構成団体を組織し「深草トレイル」を立ち上げ、この仕事を4年前の初夏から半年以上かかって行ってきました。これが深草支部結成の縁となりました。支部はその歴史部門を任せられ、林副理事長(当時)には毎回お世話になり、各会員が各史跡を担当し深草トレイルマップが完成しました。完成記念のウォークには1,200名もの参加があり京都新聞にも取り上げられました。今日もマップ片手の親子を見かけるといいます。

これを契機に行政とのつながりが深まり、毎年行われる「伏見区民めぐり」に参画して地元保勝会の行事や依頼等にも対応しています。大河ドラマのブームでは「龍馬」や「寺田屋」の案内等、活発な活動を行いました。

昨年是一段落ということで、後半には交流の為「飲み会」も行い、こちらは二回とも十数人という盛況でした。現在の支部員は(敬称略)林寛治、藤井節雄、古木達雄、三重剛、武富幸治、安田富枝、石田一郎、櫻井博、池田能久、芦田喜雄、北林秀子、そして角田進一、石田小雪、堀久子、大西秀樹も加わって頂きました。

今年「都草深草支部」は、これまでの行政等との取り組みも評価され、伏見区誕生八十周年を記念して市長表彰を受けました。新たな目標に向かって頑張っていきたいと思えます。変わっていくものと変わらないものが激しくせめぎ合う現代、今、目にするものは、必ず変化していくもの、都の南・伏見深草をゆっくりと正しく見つめて伝えていきたいと思えます。(会員 森幸弘)

◆◇ 会員の紹介 ◇◇

「続いています！京都との遠距離恋愛」



三十代後半一大決心をしてそれまで勤めた会社を辞めて京都に行き、失業保険と有り金で、無職・猫付きで貸してくれる部屋を探し、ついに「京都365日観光」を執行したのがほぼ10年前です。2日3日の旅行の繰り返しでたまっていた欲求不満を解消すべく、自転車を買って毎日毎日京都市内を走り回り、一年はあっという間に過ぎました。それで気が済むかと思ったのは大きな誤算で、埼玉に帰ってからも京都行きの頻度は変わりません。好きな壬生狂言は通うこと36回を超え、一人で入れる飲み屋もでき、折あるごとに心京都に浮遊すること一向におさまりません。

都草に入れたのは京都検定のおかげで、私にとっては革命でした。それまで一人もいなかった京都在住の方たちと初めて知り合えたからです。「京都は好きだけど京都人は嫌い」「京都が好きなら京都人と接しないほうがいい」などとまことしやかに言われてきましたが、都草のおかげで「京都人はそんな恐れるほどイケズなわけではない！」とわかりました。それまで冷たく聞こえていた「よそさん」という言葉も都草会員という認定を得た今では、「よそさん」ならではの思いを会の中で生かしていけたら、と思っています。都草の魅力ある企画や研究会の数々になかなか参加できず悔しい思いをしていますが、いつか必ず都草デビューを果たすべく東の空の下から熱い秋波を送り続けます。(会員 百瀬明美)